

“3月ジャーナリズム”化する 震災テレビ報道

～東日本大震災の映像アーカイブ研究から～

2011年3月11日の東日本大震災・原発事故の発生からまる6年が近づこうとしています。震災は報道の現場、そしてジャーナリズム研究に様々な課題を投げかけました。しかし時間の経過とともに、被災地の復旧・復興や、福島第一原発の事故処理をめぐる動きを伝える報道は持続的に減少しています。そして、震災をめぐる社会的関心の低下や記憶の風化も指摘されるようになっていきます。

日本大学法学部新聞学研究所では、公益財団法人放送文化基金の助成を受けて震災関連のテレビ映像アーカイブを構築し、震災およびそこからの復旧・復興のプロセスをテレビがどう報道してきたのか、外部研究者との共同プロジェクトで検証作業を進めてきました。本シンポジウムでは、その成果を報告するとともに、時系列分析から見えてきた様々な変化や課題などについて、現場の専門家、関係者を交えて議論をしたいと考えています。

日時

2017年1月28日(土)
14時30分～17時30分

場所

日本大学法学部10号館
1031講堂

プログラム

研究報告(14時30分～)

- ① 大井 眞二 (日本大学法学部新聞学科教授)
- ② 米倉 律 (日本大学法学部新聞学科准教授)
- ③ 原 由美子 (NHK放送文化研究所研究主幹)
- ④ 加藤 徹郎 (法政大学講師)

休憩(15時45分～16時)

ディスカッション(16時～)

コメンテーター

- ① 大森 真 (飯舘村役場/元テレビユー福島報道局長)
- ② 八谷 昌幸 (NHK報道局チーフプロデューサー)

【司会】大井 眞二

主催：日本大学法学部 新聞学研究所